

サッポロホールディングス株式会社に対する 「Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンス」の実行について

株式会社みずほ銀行（頭取：加藤 勝彦、以下「みずほ銀行」）は、サッポロホールディングス株式会社（代表取締役社長：尾賀 真城、以下「サッポロホールディングス」）が調達を計画するシンジケーション方式による「Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンス」（以下「本商品」、※1）のアレンジャーに就任し、本日実行しました。

本商品は、ポジティブ・インパクト金融原則（※2）に基づき、みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社（取締役社長：吉原 昌利、以下「みずほリサーチ&テクノロジーズ」）が独自に開発したインパクト評価フレームワークを活用し、お客さまが抱える社会的インパクト（ポジティブな影響とネガティブな影響）を包括的かつ定量的に評価します。その評価において「ポジティブなインパクトを生み出す意図を持つもの」と確認された場合、当該取り組みの継続的な支援を目的として融資を行うものです。

サッポログループは、経営理念「潤いを創造し 豊かさに貢献する」の実現に向け、サステナビリティ方針を根底として、世界的な社会課題の解決につながる価値創造に取り組み、「持続可能な社会の実現」と「グループの持続的な成長」の両立を目指しています。「サッポログループ サステナビリティ方針」のもと、サステナビリティ重点課題を「4つの約束」として整理し、バリューチェーン上の様々なステークホルダーと協力しながら、持続可能な笑顔づくりを推進し続けています。

〈みずほ〉は、このサッポロホールディングスの取り組みを中心に、別紙記載のテーマについて定性的・定量的に確認を行い、特にSDGsの目標達成に対しインパクトを与える活動として評価しました。

また、株式会社日本格付研究所（JCR、※3）から本件評価にかかるポジティブ・インパクト金融原則への適合性、および環境省のESG金融ハイレベル・パネル設置要綱第2項(4)に基づき設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォースが纏めた「インパクトファイナンスの基本的考え方」との整合性についての第三者意見書を取得しています。

〈みずほ〉は、SDGs達成に向けた取り組みについて、環境・社会・経済へのポジティブ・インパクトを示していくことが重要であると考えており、金融機関として本商品を通じ、ポジティブ・インパクト創出・評価に向けた取り組みを支援していきたいと考えています。

また、みずほ銀行は、みずほリサーチ&テクノロジーズと共にインパクト評価、ならびにインパクトマネジメント（定期的なモニタリングを通じたポジティブ・インパクトに関するKey Performance Indicator（KPI）達成やネガティブ・インパクトのコントロール支援等）を活用したエンゲージメント（建設的な対話）を行うことで、お客さまの取り組みを継続的にサポートします。

<案件概要>

融 資 先：サッポロホールディングス

アレンジャー行：みずほ銀行

貸 付 人：国内金融機関35社

契 約 締 結 日：2022年9月27日

実 行 日：2022年9月29日

※1：「Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンス」

2021年6月25日付プレスリリース「Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンス」の取扱開始について

https://www.mizuhobank.co.jp/release/pdf/20210625_2release_jp.pdf

※2：ポジティブ・インパクト金融原則

国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）（※3）の銀行および投資メンバーであるポジティブ・インパクト・ワーキンググループが 2017 年に発表した SDGs 達成に向けた金融の共通枠組みであり、持続可能な開発の 3 側面（環境・社会・経済）について、ポジティブ・ネガティブの両面からインパクト評価を行う包括的内容となっている。また、UNEP FI はインパクト特定のツールとして、気候、水、エネルギー、生物多様性、文化・伝統等 22 のカテゴリーからなるインパクトレーダーを提示している。

※3：株式会社日本格付研究所のウェブサイト

<https://www.jcr.co.jp/>

以 上

インパクト	KPI	目標・方針	SDGs
水（入手可能性）、 資源効率・安全性 [ネガティブ]	生産工場における水使用総量の削減率 （基準年：2013年） （サッポロビール、ポッカサッポロフード & ビバレッジ）	2030年：10%削減	
気候 [ネガティブ]	CO2 排出削減 （同社グループの自社拠点、2013年比）	2030年：20%削減 2050年：排出量ゼロ	 
廃棄物 [ネガティブ]	化石燃料由来のワンウェイプラスチック 製広告品類の廃止状況 （サッポロビール）	2030年：国内で原則廃止	 
	国内製造ワインに使用するペットボトル におけるリサイクル原料の使用割合（サッ ポロビール）	2030年：50%	
	ペットボトル商品におけるリサイクル原 料の使用割合 （ポッカサッポロフード&ビバレッジ）	2030年：50%	
包括的で健全な 経済、雇用 [ポジティブ]	女性管理職比率 （サッポロホールディングス、サッポロビ ール、ポッカサッポロフード&ビバレッ ジ、サッポロライオン、サッポロ不動産開 発）	2030年：20%	 
	女性役員比率 （サッポロホールディングス、サッポロビ ール、ポッカサッポロフード&ビバレッ ジ、サッポロライオン、サッポロ不動産開 発）	2030年：20%	
	障がい者雇用比率 （サッポロホールディングス、サッポロビ ール）	2030年 3%	
	男性育児休暇取得率（サッポロビール）	2025年：100%	
気候、人格と人の 安全保障 [ネガティブ]	主要調達先のうち、サステナビリティ調達 ガイドラインを満たす調達企業の割合 （サッポロビール、ポッカサッポロフード & ビバレッジ）	2030年：100%	  
健康・衛生 [ネガティブ]	不適切飲酒撲滅に向けた取り組み状況 （同社グループ）	2022年： ビール類（ノンアルコール飲料を含む）、RTD 商 品の缶容器への純アルコ ール量表示の実施率 90% 2024年： 大学生、友好企業等に対	

インパクト	KPI	目標・方針	SDGs
		する適正飲酒啓発活動（セミナー、講義等）の推進、小中学生向け飲酒防止用小冊子「知っておこうお酒のこと」の活用	
健康・衛生 [ポジティブ]	「健康」のニーズに応えるための研究開発の進捗状況（同社グループ）	広島県大崎上島町におけるレモンの継続摂取が健康に及ぼす影響の調査	
気候 [ポジティブ]	気候変動に対応可能な特性を持つ大麦・ホップの開発状況（同社グループ）	2030年：新品種（大麦、ホップ）の登録出願	